

# 解答

2024 年 12 月 31 日実施

1

- (1) ① バドリオ ② エ, (2) X: 行動党, Y: イタリア自由党,  
(3) サロ共和国, (4) ア, (5) カ, (6) 社会主義へのイタリアの道,  
(7) ク, (8) オ.

2

- (1) タンジェントポリ, (2) ① A: ア, B: カ ② 白い地域,  
(3) イ, (4) ウ, (5) 国民同盟,  
(6) ① 自由の極 ② イ ③ ウ,  
(7) 首相: ディーニ, 大統領: スカルファロ, (8) ア, (9) 民主党.

3

- (1) ウ, (2) ア, (3) 首相: メローニ, 与党: ア, ウ, オ,  
(4) X: 左翼民主主義者, Y: マルゲリータ, (5) 同胞: ウ, 民主党: イ,  
(6) 緑のヨーロッパとイタリア左派, (7) Italexit, (8) イ.

# 解説

## 1

レジスタンスに関する文章を読んで、設問に答える問題。

(1)

① **バドリオ**が正答。他にもピエトロ・バドリオや Pietro Badogliom、バドリヨなどの回答でも正答とする。

② 文章を読んで、には「サレルノ」が当てはまることが分かる。サレルノの位置は地図中の**エ**(南部)である。ウはまだしも、アとイは北部であるから社会共和国の支配下にあることを踏まえれば、選んでしまうことはない。

(2) 選択問題ではないが、文章を読めば実質的に選択問題。に当てはまる CLN 内最左派は**行動党**(PdA)、に当てはまる最右派は**イタリア自由党**(PLI)である。PdA や PLI などの略称での表記でも正答とし、また に関しては単に「自由党」でも正答とする。

(3) 答えは**サロ共和国**。もちろん「サロ政権」でも正答。

(4) 共同参戦国を覚えていなくとも、スペインは大戦に中立であったのだから、**ア**を選ぶことができる。

(5) 正答は**カ**。

I. 一見正しいように見えるが、「1932 年」に違和感を持ってほしい。ファシズム独裁が確立したのが 1920 年代後半であるから、共産党結党の年としては余りにも遅すぎるため**誤り**。正しくは 1921 年なのだが、それを覚える必要はない。

II. **正しい**。なお、正義と自由は行動党系、マッテオッティ旅団は社会党系である。

III. **誤り**。テッラチャーニは、「当初から」制憲議会議長であったわけではない。当初はジュゼッペ・サラガトであったが、彼がプロレタリア統一社会党から分裂し、勤労者社会党の党首となったため業務の両立が困難となり、テッラチャーニが議長に就任した。

(6) **社会主義へのイタリアの道**。1950 年代半ばということは覚えておこう。

(7) 正答は**ク**。

I. **誤り**。政体選択の国民投票において、キリスト教民主党は王制・共和制の立場を明確にせず、同日の制憲議会選挙では両勢力から票を獲得し、勝利した。

II. **誤り**。凡人党は支持基盤が南部であり、王制支持の立場であった。

III. 誤り。難しいところだが、連合軍は王制を支持した。

- (8) 初見だとインパクトのある問題。政党名がイタリア語で記されており、戸惑うかもしれないが、政党の略称を覚えていれば何も難しいものではなく、英語の素養があれば類推も可能である。一位はキリスト教民主党、三位はイタリア共産党であるから、(a)にはプロレタリア統一イタリア社会党 (PSIUP) が入ればよい。よってオが正答。

## 2

- (1) タンジェントポリ。ちなみに、これに対する汚職摘発は「清廉なる手」「マーニ・プリーテ」である。

(2)

① A にはアのアキレ・オケットが、B には力の共産主義再建党が当てはまる。1992 年総選挙の時には既に分裂していたことも含めて抑えておこう。

② 白い地域。中部の共産党・社会党が強かった地域は「赤い地域」と呼ばれた。

- (3) 正答はイ。

ア. 正しい。

イ. 誤り。「北部同盟」は閣僚を派遣していない。初めてイタリア共産党出身者が政権に加わったのは事実である。

ウ. 正しい。

エ. 正しい。

- (4) 正答はウ。

I. 正しい。ちなみに、キリスト教民主党は戦前のデ・ガスペリがイタリア人民党を再建したものである。

II. 誤り。イタリア共和党は現在でも、国会・欧州議会に議席は有していないが存在している。

III. 正しい。クラクシは 1995 年に亡命先のチュニジアで死亡した。

- (5) 国民同盟。ちなみにこの転換は「フィウッジの転換」と呼ばれる。

(6)

① 自由の極。フォルツァ・イタリアと国民同盟により南部で結成された「善政の極」と間違わないように注意。

② 得票率の相場を問う問題。1にあったように 1946 年の制憲議会選挙でキリスト教民主党は得票率 35.21% であり、フォルツァ・イタリアがこれを超えるとは考

えづらい。かといって、13.47%は1992年総選挙のイタリア社会党の得票率とほぼ同じであり、これは少なすぎる。よってイが正答となる。難しい問題で正答できなくとも問題はない。

③ 正答はウ。主要政治家の肖像画は抑えておこう。ちなみに、アはコッシーガ、イはディーニ、エはプローディである。

(7) 正答はディーニ(首相)とスカルファロ(大統領)。大統領は難しかったかもしれないが、首相は答えられてほしい。

(8) 問題文中で言及されているのは「オリーブの木」である。アにあからさまにオリーブが描かれているので、アが正答となる。

(9) 恐らく民主党だろうと思えてほしい。ロバが民主党、ゾウが共和党と覚えていればよいが、覚えていなくとも「民主主義者」はリベラル政党なので、モチーフにするのは民主党であろう。

### 3

(1) 正答はウ。

ア. 誤り。国民投票の承認条件は、有権者の「過半数」が投票に参加しており、賛成が過半数を獲得することである。なお、しばしば反対派(法律の維持派)が投票のボイコットを呼びかける。

イ. 誤り。租税法律、予算法律などは国民投票の対象として認められていない。

ウ. 正しい。離婚法がフォルトゥーナ＝バスリーニ法と呼ばれることは抑えておこう。

エ. 誤り。国民投票は承認された。

(2) 正答はア。

ア. 誤り。アチエルボ法では、「25%以上の得票を得た」最大得票名簿に議席の3分の2が割り振られると定められた。

イ. 正しい。なお、“legge truffa”は「いかさま法」以外にも「ペテン法」「詐欺法」とも訳される。

ウ. 正しい。

エ. 正しい。正誤の判定に悩むかもしれないが、アが明らかに誤っているので、それを選べばよい。

(3) 常識の範疇にある。首相はジョルジャ・メローニで、与党はイ、ウ、オである。

(4)  に左翼民主主義者、 にマルゲリータが当てはまる。マルゲリータは「マルゲリータ・民主主義とは自由」とも表されるのでそれでも正答とする(DSやDL

のような略称でも可)。

- (5) 同胞は**ウ**、民主党は**イ**に属す。主要な欧州政党は抑えておこう。
- (6) **緑のヨーロッパ**と**イタリア左派**。難しい問題で正答できなくとも問題はない。
- (7) これも難しい問題。Brexit から類推して **Italexit** を作り出せるか、もしくは思い出せるかを問う。
- (8) 正答は**イ**。
  - I. **正しい**。第一共和制を「政党の共和国」とすれば第二共和制は「大統領の共和国」であろうか。
  - II. **正しい**。イタリア自由党やキリスト教民主党は大統領を輩出したことがあるが、共和党はない。
  - III. **誤り**。現職のマッタレッラ大統領は、現在二期目である。